

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

| | | | |
|---|---|---|------------------|
| 施策体系コード | 5-1-2 | 事業名 | サイエンス・パートナーシップ事業 |
| 担当 | 市民まちづくり局企画部企画課 守屋(211-2192) | | |
| 全体計画（当初） | | | |
| 事業内容 | ＜年度別の事業内容＞ | | |
| | <p>平成16年に策定した「科学技術振興ビジョン」では、科学技術の振興にあたり、市民の科学技術に対する理解増進を大きな柱の一つに位置づけている。特に、子供たちの「理科離れ」「科学離れ」が指摘されている中、青少年の科学技術に対する興味・関心を高めていくためには、より身近に科学技術にふれられる場と機会を数多く創出していく必要がある。このため、地域での科学教育の担い手となるNPOやボランティアを育成するとともに、これらNPO・ボランティアと試験研究機関や大学、企業等のネットワーク化を図りながら、地域での自主的な活動を促進する仕組みづくりを整備する。</p> <p>（具体的な事業内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> シンポジウムや体験教室の開催 大学や研究機関、企業との連携により科学教育の充実を図る「科学教育札幌モデル」の構築 科学技術を分かりやすく市民に紹介する「科学ボランティア」の育成 | <p>16年度</p> <ul style="list-style-type: none"> シンポジウム、体験教室の開催 「科学教育札幌モデル」の構築及び「科学ボランティア」の育成に向けた検討調査 <p>17年度～18年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 「科学教育札幌モデル」実験事業 市内3カ所をモデル地域に指定し、科学ボランティアによる実験教室等を実施 関係機関、団体と連携した科学イベントの開催 | |
| 事業内容（量・場所・規模等） | 平成16年度事業内容（決算） | 平成17年度事業内容（決算） | |
| | <p>17年度に「科学教育実践マニュアル」を作成したことにより、これを市内小学校や児童会館に配布し、学校行事やPTA活動、児童会館行事など地域と一体となった活動の中で活用してもらうことで、科学教育等ボランティアの育成が図られるとともに、科学を身近に体験できる場の整備が可能となったことから、本事業は17年度をもって廃止する。</p> | <p>「科学教育札幌モデル」実験事業</p> <p>市内3カ所をモデル地域に指定し、子供たちへの科学教育に関心を持つボランティアを募り、彼らが主体となった実験・体験教室を開催することによって、その効果の検証や課題の整理を行なう。</p> <p>科学教育実践マニュアルの作成</p> <p>科学実験・体験教室の企画・運営から、実験内容・方法、効果的な教え方等、これから科学ボランティアの活動を始める人やグループが参考にできるマニュアルを作成する。</p> <p>関係機関、団体と連携した科学イベントの開催</p> <p>市内の試験研究機関や大学、民間企業などと連携し、科学に親しめる機会を提供するイベントを開催する。</p> | |
| 事業内容（量・場所・規模等） | 平成18年度事業内容（決算） | 評価（成果） | |
| | <p>17年度に「科学教育実践マニュアル」を作成したことにより、これを市内小学校や児童会館に配布し、学校行事やPTA活動、児童会館行事など地域と一体となった活動の中で活用してもらうことで、科学教育等ボランティアの育成が図られるとともに、科学を身近に体験できる場の整備が可能となったことから、本事業は17年度をもって廃止する。</p> | <p>科学ボランティアの育成が図られたとともに、その活動の継続性を確保するための効果的・効率的な手法や支援方策等が明らかになった。また、地域の主体的な活動を支援するための試験研究機関や大学、企業等のネットワークが構築できた。</p> | |
| 課題 | | | |
| <p>「科学教育実践マニュアル」の利用を促進を図り、地域の主体的な活動の裾野を広げていくこと。</p> | | | |
| 19年度以降の方向性・事業の予定 | | | |
| <p>17年度をもって事業の目的を達成したことから、19年度以降に予定される事業は特になし。</p> | | | |

